

低炭素杯とは？

次世代に向けた低炭素社会の構築をめざし、多様な主体が取り組む、地球温暖化防止に関する活動を表彰する制度を通じ、全国の優れた取組のノウハウや情報を共有し、さらなる活動への連携や意欲を創出するしくみが「低炭素杯」です。6回目を迎える「低炭素杯2016」は、会場を都心の日経ホールに移すと共に、環境大臣賞に加え、新設された文部科学大臣賞と企業団体賞のラインナップもさらに充実致しました。

今年の低炭素杯2016には北海道から九州までの各地域より1993団体がエントリーし、厳正なる書類審査等を経て選抜されたファイナリスト38団体が、ステージ上のプレゼンテーションに臨みました。

また、各賞を競う場であると同時に、営利、非営利という組織文化の違いに拘わらず、気候変動という地球規模の課題に取り組む仲間の情報を交換し、共に同じ目標に向かう仲間としての連帯を深める場ともなります。

低炭素杯2016の開催に際しまして、多くの企業・団体の皆様からご支援・ご協力をいただきました。心から御礼申し上げます。

そして、今年も低炭素杯を盛大に開催できましたことを、関係者及び環境省、文部科学省の皆様、エントリーして下さったすべての団体の皆様に感謝申し上げます。



オープニングメッセージ



低炭素杯実行委員長

小宮山 宏

皆さん！

本日は「低炭素杯2016」のファイナルステージに、ようこそ越し下さいました！ 低炭素杯・実行委員長の小宮山宏です。

昨年の暮れ、COP21がパリで開催され、参加した196カ国すべての国の賛成を得てパリ協定が採択されました。

人類が地球温暖化を阻止しよう、温室効果ガス排出量をゼロにしていこう、世界の平均気温上昇を2℃未満に抑えよう、出来れば1.5℃に抑えようと合意致しました。これは人類史上、本当に活気的な事です。

私は、おそらく2015年12月12日は人類が地球環境を守ろうと合意した記念すべき日になるだろうと思います。地球環境の保護にむけて、日本では非常に多くのグループや人々が活動をしています。学校、企業、自治体、NPOなど様々な主体が環境活動に取り組んでいます。規模も内容も様々です。

本日、この低炭素杯2016では、大変多くの試みの中からもっとも優れている、選ばれたファイナリスト38団体が晴れの舞台に登場致します。

皆さん、私たちは宇宙船地球号の同志です。晴れの舞台で発表される38のファイナリストの取組みを是非この目に焼き付けてお帰り頂きたいと思ひます。

さあ、それでは皆さん、一緒に目撃者になりましょう！

「低炭素杯2016」、スタートです！

2016年2月16日(火)



環境副大臣
平口 洋

環境副大臣の平口洋でございます。「低炭素杯2016」の表彰式にあたり、環境省を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。

2011年の初開催から数えて6回目を迎えた今年の「低炭素杯」には、全国1,993もの団体からの参加をいただきました。昨日は、熾烈な選考を勝ち抜いてこられた38団体の皆様によるプレゼンテーションが行われ、いずれの団体からも、地域に根ざし、創意工夫に満ちた素晴らしい取組が披露されたと伺っております。

昨日、プレゼンテーションをされた皆様、大変お疲れ様でした。そして、文部科学大臣賞をはじめ、既に各賞を受賞されました皆様、誠におめでとうございます。

皆様御存知の通り、昨年末のCOP21では、2020年以降の地球温暖化対策に関する、新たな国際枠組みである「パリ協定」が採択されました。今後は、我が国も、この「パリ協定」や、我が国の「約束草案」を踏まえ、着実に地球温暖化対策に取り組んでいかなければなりません。

そのためには、国民一人一人に、地球温暖化の危機的な状況を正しく理解していただいた上で、生活のあらゆる場面で、低炭素型の「製品」・「サービス」・「行動」を賢く選択する「COOL CHOICE」を心がけていただき、ライフスタイルの変革を進めていく必要があります。

本日、この場に集われた皆様には、ここで学ばれた知恵をそれぞれの御地元にお持ち帰りいただき、国民全体のライフスタイルの変革へと繋がる地球温暖化防止活動の輪を、一段と広げていってくださいますことを、心より御期待申し上げます。

結びになりますが、地球温暖化防止活動について学びあい、連携の輪を広げていくための「場」を全国各地にお作りいただいた実行委員の皆様、御協賛・御協力いただいた企業・団体の皆様、そして、縁の下からこのイベントを支えてくださった地球温暖化防止活動推進センターの皆様、厚く御礼申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の今後ますますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

2016年2月17日(水)



文部科学大臣政務官
堂故 茂

低炭素杯2016表彰式の開催にあたりまして、文部科学省を代表して、一言御挨拶いたします。

はじめに本日、優秀者として、表彰を受けられる皆様におかれましては、誠におめでとうございます。また、惜しくも入賞には至らなかったものの、ファイナリストとしてここまで進まれた方々も、それぞれの地域において、地球温暖化防止に関して、素晴らしい取組をされているものと承知しております。低炭素社会づくりに対する皆様の日頃からの御尽力に深く敬意を表します。

地球温暖化をはじめ、地球環境の悪化が深刻化する中、エネルギーの効率的な利用など、環境に対する負荷を軽減し、持続可能な社会を構築するためには、国民一人一人が様々な機会を通じて環境問題について学習し、自主的・積極的に環境保全活動に取り組んでいくことが重要です。

文部科学省では、国民がその発達段階に応じて、環境保全への理解と関心を深めることができるよう、学習指導要領における環境教育に関する内容の充実や、青少年の自然体験活動の推進等、地域における環境学習等の充実などに取り組んでいるところです。

地球温暖化防止に関する優れた活動とノウハウを全国に展開するとともに、プレゼンテーションを通じ、交流、学び合い、連携の「輪」の拡大を図る低炭素杯は、大変素晴らしい取組であることから、是非、文部科学省としても支援させていただきたいと思い、今回から新たに御協力させていただくことといたしました。皆様の取組により、国民の環境保全に関する理解が一層深まり、各地域における地球温暖化防止活動が更なる発展を遂げることを期待しております。

結びに、低炭素杯2016の開催に御尽力いただきました小宮山実行委員長をてはじめ、低炭素杯実行委員会委員の皆様、御協賛・御協力いただきました企業・団体の皆様、全国地球温暖化防止活動推進センターの皆様に対し、厚く御礼を申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の益々の御健勝と一層の御活躍を祈念いたしまして、私からの御挨拶とさせていただきます。

2016年2月17日(水)